

敬老のつどいに寄せて

～「百二歳児」に学ぶ～今青春 毎年世界駆け巡り、講演演舞おもちゃ体操～

校長 丸 雄治

二俣川ニュータウン地区では「敬老のつどい」が毎年、旭中学校を会場にして開催されます。それにちなみ私の人生に影響を与えた長寿の皆様をご紹介しますながら、その生き方に学びたいと思います。武者小路実篤（90歳）、パブロ・ピカソ（90歳）、片岡球子（103歳）、鼻地三郎（106歳）（以上、敬称略）

「この道より 我を生かす道なし この道をゆく。」「仲良きことは 美しきかな」の言葉を残した武者小路実篤は代表作「友情」で恋愛での両面を祝福する小説を創作しました。私は高校1年生の時に出会い文学・芸術方面に向かいました。

ピカソは、「人は鳥の声を理解して感動するのではない。なぜ、絵を理解して感動しようとするのか」と述べて、絵画表現の世界を大きく広げました。15歳で大人の表現を習得し、貧困の中で制作し、具象表現、抽象表現の垣根を超えました。片岡球子は日本画の画家です。横浜市立大岡小学校の教師だった期間もあります。大学を出た後、院展に出品しても落ち続け、「落選の神様」と言われましたが、毎日出会う児童の写生を徹底し、独自の世界を作りました。代表作「面構え」シリーズでは、歴史上の人物の銅像や、それに合う衣装の写生のために遠方まで出かけています。「富士山」では、ボンドを絵の具に練りこんで山肌を表現しました。以上の3人は、創造の世界で独自の道を開拓した達人たちです。

鼻地三郎博士とは、103歳の時に宮崎での講演会でお会いし、握手とお話をしました。当時、世界最年長の教育学者。日野原重明先生から「私の人生のお手本です」と表彰されました。100歳から世界講演旅行を始め、訪問先の中国語・ロシア語・ポルトガル語に挑戦しました。講演では、手作りおもちゃや黒田節の実演、「やる気棒」利用のオリジナル体操を交えた教育実践で盛況。本人、2人の息子とも、生後発症し、本人は、病弱と言われ、息子は肢体不自由が残ります。軍人の父の「一生子どもと暮らすか。校長はいいぞ。」といわれて教育者を目指します。息子二人が、通学先でいじめられている姿を見て、日本初の養護学校「しいのみ学園」を開校します。映画化もされます。妻の看病もしました。「3歳児教育学会」「手作りおもちゃ親子愛情教室」を開設して、国内外の多くの保護者や幼児と活動を共にします。「しいのみ学園」も世界に広がっています。「100代 99歳までは助走、100歳からが本番」「ユーモアこそが長寿者の共通点」の名言。講演会では、教え子との記念写真で「私が一番若く見えますね」（会場爆笑）とユーモアたっぷりでした。

学校は、後期になります。「ユーモア」と「挑戦」を大切にしたいと思います。

【参考文献】「百二歳児」鼻地三郎著 山本KATI出版 平成20年初版